

仙台で働く人たちの現場に直撃! 仕事のやりがいを知る会社訪問



ナビゲーター

一般社団法人ワカツク
渡辺 一馬 代表理事
宮城県における大学生の就活やインターンシップのコーディネート、若者のキャリア形成を支援するため設立した「ワカツク」の代表理事。東北学院大学で特任准教授として教壇にも立っている。

仙台で事業を営む企業を訪ね、そこで働く人や環境に触れるバスツアーを2月3日に実施。宮城県内の大学生8人が参加し、一般社団法人ワカツクの渡辺一馬代表理事を案内役に3つの会社を訪ねました。仙台名物・笹かまぼこの老舗「阿部蒲鉾店」、障害者の心に寄り添う義肢・装具を製作している「佐々木義肢製作所」、そして人生の節目にふさわしい冠婚葬祭のサービスを提供する「あいあーる」と業種はさまざま。それぞれの企業で職務に従事している人たちの声を聞き、大学生が仕事観を深める機会となりました。

株式会社阿部蒲鉾店

自社製品に対する愛情に触れ
10年先の未来を見据えた姿勢に共感



- 代表取締役社長/阿部 賀寿男
- 設立/1949年2月(創業は1935年10月)
- 従業員数/310名(うちパート148名) ※2015年2月現在
- 本社所在地/仙台市青葉区中央2-3-18 TEL.022-222-6455
- 工場所在地/仙台市泉区明通4-10 TEL.022-378-3700

http://www.abekama.co.jp/
仙台名産「笹かまぼこ」の製造・販売をしている老舗。宮城県内に多くの直営店を持つほか、百貨店や大型店の銘店コーナーなどでも販売を行っています。本店は、若者に人気の「ひょうたん揚げ」の販売コーナーや和食処「新伝馬町さぶ」も併設しています。

河北新報社の会議室に集合した大学生8人は、お互いの自己紹介を済ませ、この日訪ねる企業への質問を用意してバスに乗り込みました。最初に目指したのは、阿部蒲鉾店の製造工場。エントランスでお客様相談室の富岡さんたちに出迎えられる、まずは笹かまぼこの製造ラインを見学しました。徹底した品質保持と衛生管理が行われ、おいしそうな笹かまぼこが続々とできあがっています。富岡さんは、自社製品の特徴を説明しながら、大学生たちに試食用のかまぼこを配布。みんな、できあがりの味わいに感動していました。

会議室では、生産部の2人、販売本部ブランド推進部の3人、販売本部本店勤務の2人の社員が一行を待ち受けていました。渡辺さんの司会で、トークセッションがスタート。東北福祉大の荒さんがどんな時に仕事の充実感を得られるかと聞くと、入社4年目の販売本部ブランド推進室・川瀬隆太さんは、「新しい仕事を任せられる時と、他の社員の手を借りずに仕事をやり切った時でしょうか」と答えてくれました。東北学院大の山口さんは、「10年後、20年後の自分がどうなっていると思うか質問。社員の方々は意外な問いかけに頭をひねりながら答えていました。入社2年目、

生産部の三堀隼さんの「食品の異物混入が大きな問題となっておりますが、それを完全に防ぐ仕組みを自分の手で作りたい」という答えに、会議室内にいた全員が感心でうなずいていました。

工場を後にして、街中にある本店も見学。昨年にリニューアルオープンしたばかりのおしゃれな店内で、店員の方に売れ筋商品などについて聞きま



株式会社佐々木義肢製作所

顧客と向き合うものづくりの現場で
仕事にかけるひたむきな情熱に感動



- 代表取締役社長/佐々木 和恵
- 設立/1937年3月
- 従業員数/56名(アルバイト・パート含む)
- 本社所在地/仙台市青葉区木町通2-3-3 TEL.022-274-1181

http://sasaki-gishi.co.jp/
「全体の和と福祉の向上」を基本理念に、義手・義足・各種装具類・コルセットの製作と修理、車椅子・補助ステッキなどの販売、靴製作・インソールの販売を行っています。秋田と弘前に支店を置き、東北6県にわたって広く対応しているのも特徴です。

次に訪れたのは、東北大学病院の近くにあり、ハイセンスな外観が印象的な佐々木義肢製作所。宮内博之さんに導かれて建物内に入ると、ロの字型の構造でガラス張りというスタイリッシュな空間が広がっていました。ミーティングルームで宮内さんから会社の事業内容や専門設備、自身も資格を取得している義肢装具士の仕事について紹介。その後、実際の製作現場を案内してもらいました。石こうで型を取った足のモデルに微調整をかけた後、整形靴やコルセットの縫製を行っている様子と、どれも職人技の領域。転職してきて5年目という作業中の女性社員に話を聞くと、「以前も同じ縫製の仕事でしたが、この会社に入社してから一通り仕事を覚えるのに3年かかりました」と話してくれました。

ミーティングルームに戻り、宮内さんをはじめとする義肢装具士の方々と再びトークセッション。東北学院大の工藤さんは、「この仕事を始めるきっかけを聞きました。以前は製造業に従事していたという川口洋平さんは、「大量生産の職場にやりがいを感じられなくて悩んでいたところ、テレビ番組で義肢装具士の仕事を知り、資格を取得できる養成校を探して体験入学をしました」と教えてくれました。自動車メー

カーでデザインを手掛けていた小栗大宜さんは、「使ってくれる人の前で仕事をしたかったからです」と、利用者と密なコミュニケーションを図りながら物づくりに取り組めるやりがいを感じてくれました。宮城学院女子大の遠藤さんは、地元ではなく、どうして仙台で働いているのかを質問。奈良県出身の犬飼遥さんは、「関西では、私が目指す整形靴を専門にする会社が少なく、現在の会社のように一貫製作するのではなく、個々のパーツを作るころばかりでした。それに、若いうちに遠くの場所でも働くのも、良い経験になるかなと思って」と、笑顔で話してくれました。



仙台で働きたい!

仙台で働く人たちの現場に直撃! 仕事のやりがいを知る会社訪問

企業見学バスツアー

- 代表取締役社長/菊地 隼
- 設立/1961年9月
- 従業員数/300名
- 本社所在地/仙台市青葉区錦町1-6-34 TEL.022-227-3336
- セレモール仙台所在地/仙台市青葉区郷六字館22-1 TEL.022-226-2220

http://www.heian-sendai.co.jp/aiare/
観光葬祭互助会サービスを提供。互助会の運営を行うメンバース部門、ブライダル部門、フューネラル部門の3部門で展開しています。フューネラル部門では、葬儀に関わるさまざまな相談を受け付けるほか、相続や各種手続きなどのサポートも行っています。



株式会社あいあーる

悲しみや困難に寄り添いながらも
質の高いサービスを目指す志に感銘



最後に訪問したのは、あいあーるの「葬祭会館セレモール仙台」。現在、あいあーるが持つ8つの会館の中で最も規模が大きく、一番最初に建設された施設だそうです。まずは、葬祭部門の統括部長である佐藤靖浩さんの案内で、広い会館内を見学。大中小のホールや地下の安息室、バスタイプの靈きゅう車などを見せてもらいました。

法事を行う会場に集まり、この会場で働いている社員の方々と対面さまざまな質問を投げかけました。この仕事に就くきっかけを、今年で入社8年目となる葬祭部門のプランニングを担当する荒井健聖さんに聞くと、「高校生の時、友人のお父さんのお葬式に出席して、この仕事に興味を持ちました。そして、すぐに葬儀会館に電話して職場を見学させてもらい、どんな業務内容なのかを学びました」という荒井さんの行動力に大学生たちはビックリ。佐藤さんも「この会館のスタートから立ち合っている、がむしゃらに仕事をしていた時、お客さまからかけられた感謝の言葉が背中を押してくれました。その時から、お客さまが困っていたり悲しみに暮れていた状況で、その声をお聞きすることが、自分の仕事であるという自覚しました」というエピソードに、一行は感心。東北学院大の鎌田さんが、

働いて辛いことは何かを聞くと、互助会メンバー担当の高橋弘美さんは「仕事柄、友人の結婚式に出席できなかったことは残念でしたね。自分のやりたいことができなくなってしまうと悩んだ時期もありましたが、自分の気持ちを強く持つことが大切じゃないでしょうか」と語ります。荒井さんは「お客さまからのお叱りが一番応えますね...。その日は落ち込みますが、次の日はちゃんと切り替えるようにしています。お叱りの言葉は次の経験に生かせるよう、しっかりと心に留めておくよう心掛けています」と、業務の心得を教えてくださいました。

企業見学バスツアーを終えて 何を生かし、何を変化させますか?

バスツアー参加者の皆さんから、3社を巡った感想を聞きました。



矢崎 亜実さん
東北学院大学
教養学部 言語文化学科

目の前にある事柄に対して後回しと素通りをやめて、自分のアンテナに引っ掛かる興味の対象にしっかり向き合うことが大切だと感じました。その姿勢で就職活動では、本気で取り組める、自分にピッタリの職業を見つけたいと思っています。



鎌田 裕太さん
東北学院大学
教養学部 地域構想学科

漠然とした内容の質問しかできなかったため、これから就職活動する上で具体的な質問をしっかりと用意して臨みたいと思いました。これまで給与・休日といった条件ばかりを気にしていましたが、自分にとってやりがいのある仕事は何かを突き詰めていきたいと考えています。



工藤 景介さん
東北学院大学
教養学部 地域構想学科

自分が就職先を選ぶ第一条件は「企業の安定性」でしたが、働いている方々の話を聞いて意識が変わったような気がします。安定性だけではなく、自分にとってやりがいを感じられる仕事とは何かをよく考え、今後の就職活動に生かしていきたいと思っています。



山口 真依さん
東北学院大学
教養学部 言語文化学科

社会人として働くようになったら、体の自己管理と心の自己管理の両方が求められることを知りました。就職したら、体調管理と職場内のコミュニケーションを大事にして、自分のことは自分でしっかりと支えることができる大人になりたいと思います。



渡辺一馬代表理事
何に興味があり、どういう事を知りたいのか具体的に分かっていたら、企業に的確な質問ができるし、自分のために必要な答えが必ず返ってきます。一般的に、就職活動のスタートは3月1日とされていますが、興味がある企業について調べることはそれ以前にも自由にできます。今回の経験を生かし、得られるものが多い企業訪問を実践して欲しいと思っています。



荒 龍太さん
東北福祉大学
総合マネジメント学部 情報福祉マネジメント学科

人と接することが好きで、お客さまとコミュニケーションができる仕事をしたいと思っていますが、そのためには身に付けるべきことが多くあることを知りました。自分の興味のある分野を探し、そこで頑張れる職業を目指していきたいです。



遠藤 有菜さん
宮城学院女子大学
学芸学部 日本文学科

職場の雰囲気が自分に合っているかどうか、実際に働いている方から現場のお話を聞いて大変参考になりました。阿部蒲鉾店の社員の皆さんから、自社製品に誇りと愛情を持っていることが伝わってきて、自分もそのような仕事に就けたらと思いました。



安住 和貴さん
宮城大学
事業構想学部 デザイン情報学科情報システムコース

この企業見学バスツアーに参加するまで、製造工場での勤務にあまり魅力を感じていませんでした。今回の職場訪問で、企業の理念を理解し、その理想を体現しようと頑張っている社員の方々の姿に触れ、自分の価値観が変わったような気がします。



渡邊 聖美さん
東北福祉大学
総合マネジメント学部 情報福祉マネジメント学科

自分がやりたいと思うことや興味のあるものは何か、普段はあまり気にしたことがなかったのですが、皆さんのお話を聞いて考えるきっかけになったような気がします。日常生活の自己管理や困難の対処法など、社会人として身に付けるべき考え方を学ぶことができました。